

令和5年度 あま市平和体験学習報告

終戦から78年の歳月が流れ、悲惨な戦争の記憶が次第に薄れつつある現在、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び次世代へ継承していくことを目的として、平和体験学習を行いました。

8月8日(火)・9日(水)の2日間、市内中学生の代表9人は、平和推進事業の先進地である広島市を訪れ、広島平和記念資料館の見学、各中学校の生徒が平和を祈念して折った千羽鶴の献納、被爆体験講話などを通して戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。貴重な体験をしてきた生徒の感想を紹介します。



綾 唯月(七宝中学校3年)

私は、広島平和記念資料館で沢山の写真や遺品を目にしました。あまりの悲惨さに胸が苦しくなり、戦争はもう二度とあってはならないことだと強く感じました。平和記念公園では、多くの折り鶴や平和へのメッセージを拝見しました。私はその時、少し安心しました。私たちは皆同じ平和への意識を持っていると思っただけです。それと同時に、戦争の悲惨さや平和に対する思いを、少しでも多くの人に繋げなければいけないと感じました。

熊崎 晴樹(七宝中学校3年)

原子爆弾が投下された後、広島には黒い雨が降ったそうです。その雨は放射性物質や油などを含み、命を奪えるほど危険なものだったそうです。しかし、被爆した人は飲むものがなく喉がカラカラで、飲むしかなく飲んだそうです。それほど追



いつめられていた当時を知り、今の私たちはどれほど幸せで安全に、そして平和に暮らしているのかわかりました。今後は、平和な世界を守るために、今回の体験で学んだことを伝えていきたいです。

森 駿一郎(七宝北中学校3年)

今回平和体験学習に参加して、戦争の悲惨さを学ぶことができませんでした。資料館の見学だけでなく、被爆者の方からお話を聞くことができ、高齡化により、実際にお話を聞くことが難しくなっています。その一方で、世界にはまだ一万もの核兵器が残っています。被爆者の方の思いを引き継ぎ、若い世代である僕たちが、核廃絶を訴えていくことが使命であり、世界恒久平和への近道だと思います。

相原 麗(美和中学校2年)

実際には初めて見た原爆ドーム。痛ましく残されたそれは戦争の残酷さを伝えてくれました。一瞬にして沢山の命を奪った原子爆弾が投下されてから今年で七十八年。被爆者は高齡化し、戦争の恐ろしさ、また戦争は繰り返してはならないこ

とを伝えるのが難しくなりました。平和の実現は当たり前ではありません。でもだからこそ、今回の体験で学んだことを多くの人に語り継ぎ、核兵器廃絶へと声を上げることが私たちの役目だと思います。

玉置 連佑(美和中学校2年)

僕は今回の学習を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さについてたくさん学ぶことができました。僕は戦争についてテレビで見ただけでなく、ほんとは、ほとんど知識がありませんでした。ですが、実際に見たり聞いたりして戦争に対する思いが変わりました。これから先は、被爆者の思いを自分事として受け止め、今回の学習で学んだことを周りの人に伝え、平和な未来へ繋がられるよう努力していきます。



大橋 結音(甚目寺中学校3年)

私は広島平和体験学習を通して、核の恐ろしさ、戦争の悲惨さを学びました。原子爆弾の残酷さを、実際に目で見て、耳で聞いて、肌で感じ取ると、目を背けたくなる現実というものがありません。ですが、平和記念資料館にあった資料は一つひとつが涙なしでは見られないような鳥肌が立つものばかりでした。特に被爆者の方から直接聞いたお話には想像を絶する恐ろしさ、言葉を失う怖さがありました。この惨劇を二度と繰り返すことがないように、私たちが次の世代へ語り継ぎ、バトンをつなぐべきだと強く感じました。

林 枇向子(甚目寺中学校3年)

私は原爆が落ちて傷ついた人が何十万、何百万といわれてもその数が想像しにくく、あまりの大事には聞こえませんが、実際に原爆



ドームに行ってみて、私たちには想像もできないようなケガをおっている私よりも小さな子や、家族を目前で亡くした辛さがありました。私もこんなケガをおったら、家族を目前で亡くしたらと思うと、とても心が苦しくなりました。こんな思いをする人が一人でも減る世界にするために、絶対に二度と戦争を行ってはいけないと確信しました。

伊藤 和彦(甚目寺南中学校3年)

僕は、平和体験学習に参加して被爆者の方々の実際のお話を聞き、戦争や核兵器の悲惨さに心が痛くなりました。平和記念資料館では当時の建物や人々の写真・映像などを見学しました。さらに残酷な原子爆弾の恐ろしさを知り胸が痛くなりました。見学者の中には涙する人もいました。一度と見たくないものばかりで戦争は絶対に、起こしてはいけな



い心から思います。そして、被爆者

の想いを、後世に残すために、僕たちが語り継いでいくことが大切だと思いました。

西村 咲紀(甚目寺南中学校3年)

この平和体験学習を通して、残ったものから伝わる思いがあるということが分かりました。袋町小学校の壁に残った伝言や平和記念資料館に展示されている遺品から、疎開先の子を想う親の気持ち、離れ離れになった家族を探す悲痛な思い、原爆によるやけどや後遺症に苦しむ思いが伝わってきて、原爆・戦争反対の気持ちが強まりました。授業やインターネットからは伝わらない被爆者の苦しみ、残された人の思い、これを知り、理解を深め、平和について考えることが今すべき事だと思います。

「平和の署名」を届けました

「平和の署名」にご協力いただきありがとうございました。集まった964筆の署名は平和体験学習で広島市を訪れた中学生により広島平和記念資料館へ届けました。

問合せ先 人事秘書課 ☎444・1713
FAX444・1351

